

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人四天王寺学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	保育科	夜・通信	2	0	5	7	7	
	ライフデザイン学科	夜・通信			6	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/kouhyou/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人四天王寺学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/kifukoui/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株) 日経サービス 代表取締役 会長	2025.6.6～ 令和 11 年度 に開催する決 算 及 び 事 業 の実績を報告 する評議員会 の終結の時ま で	経営知識に優れた高 度な立場からの法人 経営に関する助言を 行う
非常勤	うめだ速見法律事務所 弁護士	2025.6.6～ 令和 11 年度 に開催する決 算 及 び 事 業 の実績を報告 する評議員会 の終結の時ま で	①コンプライアンスや 経営方針、業務ルー ルの遵守のための助 言を行う。 ②リスクマネジメントに 関する助言を行う
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人四天王寺学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布している。そのガイドラインに基づき、授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法などを明記したシラバス作成を行うよう教員に依頼している。 シラバス作成後には、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックのため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。 作成及び公表時期については、2月に授業計画(シラバス)を作成し、3月にはFD委員によるシラバスチェックを行い、修正後3月末に公表を行っている。	
授業計画書の公表方法	公式ホームページにて公表 https://ibunet.shitennoji.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp (ゲストユーザーにて閲覧可)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価については、「四天王寺大学短期大学部履修規程」(令和7年度入学生)「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程」(令和6年度入学生)に規定している。また、成績評価方法や成績評価基準を、履修要覧に掲載し学生に明示している。 シラバスには、到達目標に対する達成度を評価する方法・基準を記載し、厳格な成績評価により、適正に単位の授与を行っている。 また、成績評価基準の平準化を目指し、学期末に成績評価状況を確認している。これに加えて、学科間で相互に成績評価が適切に行っているか等に関するピアレビューを実施している。													
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。													
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部G P A制度に関する規程」において、学期G P A及び累積G P Aの算出方法を定め、履修要覧及び公式ホームページに掲載し、学生に明示している。 また、学生や保護者が常時閲覧可能な学生ポータルサイト「IBU.net」に各学期のG P Aと各年度のG P A、累積のG P Aを含めた成績を掲載し、修学状況の把握と指導の目安に活用している。 加えて、各学科における修得単位数の分布状況及び各学部におけるG P Aの分布状況は、教務委員会で学科等の教員に周知し、学生指導に活用するとともに、公式ホームページにて公表し、学生自身も学修状況を把握できるようにしている。													
【G P Aの算出方法について】 <table><tr><td>評価</td><td>秀</td><td>優</td><td>良</td><td>可</td><td>不合格</td></tr><tr><td>G P</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr></table> 学期G P A＝(当該学期の履修登録科目のG P ×当該科目の単位数)の合計 ／当該学期の履修登録総単位数 累積G P A＝(在学全期間の履修登録科目のG P ×当該科目の単位数)の合計／在学全期間の履修登録総単位数 ・認定科目や評価が未確定または保留の科目については、G P Aの算定対象外とする。 ・再試験、追試験または再受験が発生した場合、当該科目については再試験、追試験または再受験で得た成績評価をG P A算定対象とする。 ・再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得た成績評価と単位数をG P A算定に算入するものとする。なお、当該科目について過去に得た成績評価および単位数はG P A算定から除外しない。		評価	秀	優	良	可	不合格	G P	4	3	2	1	0
評価	秀	優	良	可	不合格								
G P	4	3	2	1	0								
客観的な指標の算出方法の公表方法	公式ホームページにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/kouhyou/												

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学の「建学の精神」、「学園訓（本学の教育目的）」、教育の理念に基づき、短期大学部全体及び学科において「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定めている。さらに、ディプロマ・ポリシーに基づき「卒業時点において学生が身につけるべき能力」を身に着けた人材を育成するため、教養教育科目（令和7年度入学生）基礎教育科目・共通教育科目（令和6年度入学生）・専門教育科目の各科目を設置している。本学の教育方針を履修要覧、公式ホームページに掲載することで、学生が2年間を通して計画的に学ぶことができるよう取り組んでいる。 また、各学科で定められた卒業要件を、個々の学生が到達しているかを教授会で審議し、その結果を教育研究評議会で承認し、卒業を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	公式ホームページにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人四天王寺学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
財産目録	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
事業報告書	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
監事による監査報告(書)	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 四天王寺学園中長期計画 対象年度: H28年度～R7年度)
公表方法: 公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/mediumplan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/jiko/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/jiko/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/)
(概要) 【短期大学部保育科】 保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む、保育実践力及び社会援助技術の基本を身につけた保育者養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/)
(概要) 【短期大学部保育科】 保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む保育実践力の基本を身につけた保育者養成を目的とします。グローバルな視点が必要な現代社会における保育者の役割を自覚し、仏教保育の理念を理解したうえで、子どもや保育に関する基礎的・基本的な知識の理解と、適切な思考・判断・技術に基づいた保育実践力を身につけることを目指します。 このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の 3 点とします。 1) 慈愛に満ちた保育者として保育現場で活躍できる人格形成 仏教保育の理念と方法を体得し、受容性と共感性に富む慈愛に満ちた保育の実践者として、子どもの成長と共に自らの人格形成を目指すことができる。 2) 保育者として幅広い教養と専門的・実践的な知識および表現・技術の獲得 保育や子どもとそれらを取り巻く社会情勢に関心をもち、保育技術の向上や新たな知識の獲得に意欲的に取り組み、保育や幼児教育、福祉、また子どもや子育てに関する知識を理解し、子どものあそび・表現活動にかかわる基礎的な技術力を身につけるとともに保育現場における適切な表現・援助の方法を体得している。 3) 自己表現力・コミュニケーション能力および課題解決能力の修得 保育現場で起こる課題に対して、適切な判断を下すことができ、コミュニケーション能力を発揮して臨機応変に保育を展開することができる。さらに、自らの保育実践を省みて新たな課題を設定することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/)
(概要) 【短期大学部保育科】 (1) 教育課程の編成、教育内容 保育科は、幼稚園教諭 2 種免許状および保育士資格の取得を基本的な考えとします。「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」を中心に、保育の本質を捉え、仏教保育の理念に基づいた子ども観や保育観を基礎とした専門的な実践力を身につけることができるように、系統的に分類した 6 つの科目群について、基礎・基本から応用・発展へ、また、確実な知識・技術の修得から課題解決力を培う探求型の学修態度の育成へと、確実に保育実践力を自ら身につけていくことができるように、各専門科目を年次配置します。 1) 保育の本質や意義、保育制度や歴史、保育者の役割に関する科目群には、「保育者論」「保育原理」「教育原理（制度的事項等を含む）」「社会福祉」などの科目を配置。 2) 心理学に基づいた子どもの発達や家庭支援の基礎理論に関する科目群には、「保育の心理学Ⅰ」「子どもの保健」「子ども家庭支援論」「在宅保育」などの科目を配置。

- 3) 保育内容（領域別の理論と実践）・方法に関する科目群には、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「子育て支援」などの科目を配置。
- 4) 保育に必要な表現技術・基礎技能を身につけるための科目群には、「音楽Ⅰ～Ⅳ」「図画工作Ⅰ・Ⅱ」「小児体育Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置。
- 5) 学外実習での課題解決に関する科目群には、事前・事後指導を含む学外実習などの科目を配置。
- 6) 仏教精神を核に、慈愛に満ち、現代の保育課題に対応できる保育者を育てるための本学独自の科目群には、「仏教保育論」「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」「保育探究演習」などの科目を配置。

（２）教育方法

- 1) 具体的な保育事例やICTの活用を通して、保育への興味や関心を高め、専門的な知識の理解力や課題把握・解決力が身につくような授業を実施します。
・基礎知識や理論に関する科目については、聞く力・書く力を大切に、授業規律の徹底を図ります。
・理論や技術の応用や発展を目指す科目については、グループワーク等を通して協調性を育みなら、話す力や問題解決能力が身につくような授業を実施します。
- 2) 個人差の大きいピアノ演奏能力については、大学入学前から「ピアノ初心者向け基礎講座」を開催します。入学後も個人指導を行います。
- 3) 異学年交流や地域の保育現場と連携したアクティブ・ラーニングによる教育を実施します。保育実践力を身に付ける意欲を高め、慈愛に満ちた保育者としての態度を培うことができるよう、保育科全教員がティームティーチング制で指導にあたり、学生の学びを推進します。

（３）学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 上記に示した教育課程における学修成果の評価については、各科目の特性に合わせて、筆記試験や実技試験、課題の提出やレポート作成による多様な評価方法により、基礎的な聞く力や書く力等の学修態度も含めて評価します。
- 3) 慈愛に満ちた保育者としての資質・態度を身につけるために、授業への出席回数とはもとより、グループワークや発表などへの参加度、グループで作成するワークシートも評価のひとつとして取り入れます。
- 4) ピアノ技術力については、個人差が大きいので、ルーブリックによる評価を行います。
- 5) 保育科の核となる「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」では、毎回の授業で作成するワークシートと各セメスターの最後にまとめるレポートによって構成される学修ポートフォリオによる評価をセメスターごとに行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【短期大学部保育科】

保育科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 保育や子どもに対する学びへの興味・関心が高く、慈愛に満ち、将来、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）となる意志が明確なこと。

〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕

- 2) 将来、保育現場で、子どもの援助だけではなく、子育て支援等における保護者への支援の基礎となるコミュニケーション能力や自己表現力を、仲間と協調して高めようとする姿勢のあること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕

3) 保育現場で要求される保育技術、特にピアノ演奏についての能力の獲得意欲のあること。 〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、表現力、主体性・多様性・協働性〕 4) 高校生活全般を通して自分の知的好奇心を育てながら、高等学校で学ぶ基礎学力（特に国語）および音楽に対する基本的な知識を身につけていること。 〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、主体性・多様性・協働性〕

学部等名 ライフデザイン学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/)
（概要） 【短期大学部ライフデザイン学科】 ライフデザイン学科は、聖徳太子の仏教精神をもとに、豊かな人格形成・修養に努め、生活全般からビジネスにいたるまでの幅広い教養と実務的な専門性を備えた、社会（組織）に貢献できる人材養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/)
（概要） 【短期大学部ライフデザイン学科】 ライフデザイン学科では、建学の理念である聖徳太子の仏教精神とそれに基づく学園訓の見地より誠実・礼儀・健康を心に留め、豊かな教養と実務的な専門性を備えた、グローバルに活躍できるビジネスパーソンを育成することを目的とします。 このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。 1) 建学の精神に根ざした人格形成 聖徳太子の仏教精神を理解し、和の心を持つ人格形成修養を基に、社会に貢献できるビジネスパーソンとしての能力が培われている。 2) キャリアプランを自ら描く能力の修得 社会状況に関心を持ち、積極的にチャレンジし、8つのフィールドと24のユニット科目での学びにより、新たな資格を取得している。更に、卒業後、生涯にわたるライフプランとキャリアプランを自らデザインし、描くことができる。 3) 社会で求められるビジネスパーソンとしての基礎力の修得 基礎学力をはじめとし、フィールド・ユニットでの専門知識・技能、社会人基礎力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/)
（概要） 【短期大学部ライフデザイン学科】 （1）教育課程の編成、教育内容 ライフデザイン学科は、知識・技能を活用しながら学びの視野を広げ、問題を解決する力（ジェネリックスキル）と資格取得をとおして各分野の学びを深める力（スペシャリスト）の育成を基本的な考えとしています。教育課程の編成と実施については、建学の理念を土壌に、基幹科目として「ライフデザインゼミナールⅠ～Ⅳ」「キャリアの基礎Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイン」「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を配し、社会で求められる基礎学力やデータ処理能力を身につけます。その上で、専門科目として『ビジネス・ICT』『医療事務』『フード』『ファッション』『インテリア』『トータルビューティ』『ブライダル』『グローバルカルチャー』の8フィールドの各科目を開講し理論的な知識を学び、実践的な実習・演習によって知識・技術を定着させ、さらに各種資格取得で学びを深めます。また同時に、地域連携活動を主としたプロジェクト型学習で知識・技能を活かし広げる教育を実施します。

- 1) ビジネス・ICT フィールドの科目群は、社会で働く心構えを始めとして、さまざまなビジネス環境で求められる仕事の基本を学びます。ICT・IoT・AI などについての知識・技能を深め、必要な情報やデータを的確に集め活用する能力を養います。
- 2) 医療事務フィールドの科目群は、医療事務や医師事務作業補助者の知識や良好な人間関係を築く方法について学びます。
- 3) フードフィールドの科目群は、食品の栄養や調理法、食空間の演出、行事食を通じた食文化などについて学びます。また、実習では料理や製菓の楽しさを知り、技術を身につけ、健康を支える食生活を実践する力を養います。
- 4) ファッションフィールドの科目群は、健康で快適な衣生活を営むための素材学や衛生学の知識を身につけます。また、個性を表現するための感性を養い、パターン製図やソーイングなど基本的な衣服製作の技術を身につけます。
- 5) インテリアフィールドの科目群は、生活の中にある雑貨や家具などのインテリアについて学び、空間をイメージしてデザインする力を養います。また、色彩についての基礎的知識を学び、コーディネートする技術を身につけます。
- 6) トータルビューティフィールドの科目群は、健康で美しい身体を作るための肌や爪の生理学を学びます。また、メイクやネイルの技術を実習・演習を通して身につけます。
- 7) ブライダルフィールドの科目群は、婚礼の歴史や慣習などについて学び、プランニングや司会法などブライダル業界で必要なスキルを身につけます。また、ブライダルフラワーの演出技術を学びます。
- 8) グローバルカルチャーフィールドの科目群は、外国語（韓国語・英語）の基本的な会話を身につけます。また、グローバルな視点で異文化について学び、一方で、茶道を通して日本の伝統文化について理解を深めます。

（2）教育方法

- 1) 基幹科目である「ライフデザインゼミナールⅠ～Ⅳ」「キャリアの基礎Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイン」「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」では、2年間をかけて、社会で求められる基礎的な学力やデータ処理能力などを段階的に身につけます。
- 2) 『ビジネス・ICT』『医療事務』『フード』『ファッション』『インテリア』『トータルビューティ』『ブライダル』『グローバルカルチャー』の8つのフィールドで展開する専門科目では、セメスター（半年）毎に自分の興味・関心に合わせて科目を選択し、見直しながら学修します。同じフィールドを選択することで学びを深化させ、フィールドを変更することで学びの幅を広げ、より自分にあった学修プランを作り主体的な学びを促します。
- 3) 講義科目では、理論的な知識を学び、実習・演習科目では、実践的に知識・技術を定着させます。そして、学びの集大成として、プロジェクト型学習への参加や各種資格取得を目指します。

（3）学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 科目の特色に応じて定期試験、小テスト、課題提出などにより評価します。アクティブ・ラーニングとして行うグループワークや発表などの学修態度や意欲も含め、総合的に評価します。
- 3) 実習・演習では、実践での学修態度を重視して評価します。制作した作品や課題について、制作マップや実習ノートなど完成に至るまでの過程や、制作発表時のプレゼンテーションボードなども含め、総合的に評価します。
- 4) 各種資格の取得は、学修の目標、意欲、成果として位置付け、評価します。
- 5) プロジェクト型学習を通じた地域連携活動への参加は、学習の意欲、実践力の成果として位置付け、評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【短期大学部ライフデザイン学科】

ライフデザイン学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 豊かな教養と専門性を備え、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンになることを目指すこと

(求める要素: 思考力・判断力、表現力)

2) 自らのライフプランとキャリアプランを描くため、自分の将来像や仕事のイメージ創り、適職探しに興味を持つこと

(求める要素: 主体性・多様性・協働性)

3) 仕事に必要なビジネス関連知識を修得し、各種資格取得を目指すこと

(求める要素: 知識・技能)

4) コミュニケーション能力を高め、物事に積極的にチャレンジする熱意のあること

(求める要素: 関心・意欲・態度)

5) 高等学校等で学ぶ、基礎的な国語力と情報処理能力を身につけていること

(求める要素: 知識・技能)

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法: 公式 HP にて公開

<https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/information/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	0 人	－					人
保育科	－	4 人	2 人	3 人	0 人	0 人	9 人
ライフデザイン学科	－	2 人	0 人	3 人	1 人	0 人	6 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		58 人					59 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：公式 HP にて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/faculty/staff/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
令和6年度については、以下のような取り組みを主に行った。							
（１）相互授業参観 教職員による「相互授業参観」を実施している。従来は冬学期開講期間に実施していたが、参観対象となる授業に片寄りが生じるとの意見から、今年度は夏学期の開講期間に実施した。原則として実習等の授業を除いて、全専任教員の授業を対象とした。参観については、専任教員だけでなく非常勤講師、事務職員も希望すれば授業を参観できる。参観者は授業担当者にコメントを提出する。また、授業後には合評会が行われ、授業担当教員は、授業を参観した教職員らの意見を聴取し、授業改善に活かしている。							
（２）ファカルティ・ディベロップメント委員によるシラバスチェック 各学科のカリキュラム・ポリシー等に基づくシラバスのチェックを各学科・専攻のファカルティ・ディベロップメント委員に依頼し、実施した。チェック項目は「授業概要」「授業計画」「目標達成のための授業方法」「成績評価の方法」等で、カリキュラム・ポリシーに沿った内容となっているかを確認した。							
（３）学生による授業評価アンケートの実施 学生による授業評価アンケートを夏学期と冬学期の２回実施した。評価結果を参考にし、各科目担当教員は授業改善コメントを改善コメント記入欄に入力する。大学全体の集計結果は従来通り公式ホームページに公開し、今年度冬学期より授業ごとの集計結果および改善コメントを学内ホームページに公開した。							
（４）「FD・SD報告書」の作成 令和6年度のFD活動状況をまとめて「FD・SD報告書」を作成し、ホームページに公開した。							
（５）「FD（・SD）研修会」の実施 教育職員・事務職員が連携して今後取り組むべき課題を発見し、時代に則した教育を展開できる能力・資質を向上させることを目的とする「FD・SD 研修会」を１回、教育職員を研修対象者の中心とした「FD 研修会(動画視聴)」を１回開催した。「FD・SD 研修会」は「これからの大学が生き残るには～大学ジャーナリストの現状分析と提言～」と題した講演を開催した。「FD 研修会」は「初年次教育サイト集の利活用について」と題し、初年次教育に関する教員の負担軽減および教育内容の充実を図るため高等教育推進センターで作成した「初年次教育サイト集」の利活用についての解説動画を視聴する方法で実施した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育科	40 人	50 人	125%	160 人	95 人	59%	0 人	0 人
ライフデザイン学科	40 人	53 人	132%	140 人	125 人	89%	0 人	0 人
合計	80 人	103 人	128%	300 人	220 人	73%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育科	61 人 (100%)	4 人 (7%)	55 人 (90%)	2 人 (3%)
ライフデザイン学科	77 人 (100%)	4 人 (5%)	70 人 (91%)	3 人 (4%)
合計	138 人 (100%)	8 人 (6%)	125 人 (90%)	5 人 (4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：四天王寺大学				
就職先：大阪市立保育所、岸和田市役所、㈱アインホールディングス、エム・ユー・センターサービス大阪㈱、クリナップ㈱、クボタ機械設計㈱、阪神電気鉄道㈱				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布しており、そのガイドラインに基づき、授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法などを明記したシラバス作成を行うよう依頼している。
シラバス作成後には、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックのため、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。
また、本学は夏学期・冬学期の2学期制で1学期14回授業と定期試験を設けて実施している。年間の授業計画については、教授会・教務委員会で検討し、最終的に教育研究評議会で決定している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

成績評価については、「四天王寺大学短期大学部履修規程」（令和7年度入学生）「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程」（令和6年度入学生）に規定している。また、成績評価方法や成績評価基準を、履修要覧に掲載し学生に明示している。

シラバスには、到達目標に対する達成度を評価する方法・基準を記載し、厳格な成績評価により、適正に単位の授与を行っている。

また、各学科で定められた卒業要件については履修要覧及び公式ホームページで学生へ明示しており、個々の学生が卒業要件を満たしているかを教授会で審議したうえで、その結果を教育研究評議会で承認し、卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	保育科	62 単位	㊥・無	半期 30 単位
GPAの活用状況	ライフデザイン学科	62 単位	㊥・無	半期 30 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)	公表方法：：HPに公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/gakushu_seika/			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公式HPにて公表 <https://www.shitennoji.ac.jp/about/campusmap/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

(令和6年度以前入学生)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学部	保育科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費
	ライフデザイン学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費

(令和 7 年度以降入学生)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学部	保育科	837,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
	ライフデザイン学科	837,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生サポートフロアを設置し、他人とのコミュニケーションに不安のある学生をサポートする体制を整えている。また学習サポートデスクではリメディアル教員による文書作成サポートをはじめ、基礎教育の支援を行っている。グローバル教育センターである i-Talk にて、海外研修・留学の支援を行っている。また、障害のある学生より申請があれば、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律」(令和 6 年 4 月 1 日施行)に基づき、他の者と平等に教育を受けるための合理的配慮の提供を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターでは、民間企業、公務員、福祉職、保育職を希望する学生への進路支援を行い、教職教育推進センターでは、教員志望の学生を対象とした進路支援を行っている。短大においては、教員と協力して、授業内では自己理解やキャリアプランニングなど基本的な力を養い、授業外のガイダンスでは学生個人の興味や志向性に応じた個別の支援・情報提供をしている。具体的には、ライフデザインゼミナールⅡの授業にキャリアセンターのスタッフが参加し、履歴書添削や模擬試験の手配および運用、卒業生や採用担当者の講演手配、活動方法やガイダンスの説明と勧奨、模擬面接、相談しやすい関係の構築をしている。また、グループ面談を実施し、話しやすい環境で学生の興味や関心を聞き取り、個別の面談に繋げている。対面とリモートのハイブリッドで、学生の進路相談や悩みを聞き取り、就職活動が滞る事の無いようにサポートするとともに、段階的な就職ガイダンスやテーマ別講座を実施し、学生個々が自信をもって就職活動を開始できるようにサポートし、学生の希望に沿った職業選択の実現を目指している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の心身の健康支援は保健センターとそれに併設した学生相談室が担っている。毎年の健康診断時の聞き取りに加え、健康診断で異常のあった学生には事後フォローを行い、経過を追っていくとともに、看護師が常駐し、応急処置や緊急時の対応ができる体制を整えている。禁煙や性感染症などの啓発活動も実施し、学生の健康に関する意識を高める取り組みを行っている。 学生相談室は専任臨床心理士・公認心理士が常駐し、学生の精神的な悩みの相談窓口としてカウンセリングを実施し、また人間関係構築が苦手な学生の支援として、居場所づくりに向けたイベントの企画などを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : HP に公表 (https://shitennojiuniversity.repo.nii.ac.jp/)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F227310108598
学校名（〇〇大学 等）	四天王寺大学 短期大学部
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人四天王寺学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		46人（ 0 ）人	40人（ 0 ）人	46人（ 0 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	30人	29人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	0人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				46人（ 0 ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	-	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	-	-
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	-
計	人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	-

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-	-
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	人	-	0人
計	人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。